

ACP支援は、必要なのか！ ～事例が教えてくれる看護師達の思い～



『自分の人生の最期はどうしたいですか？』
『人生会議はじめてみませんか？』

社会医療法人愛仁会介護老人保健施設ケーアイ
療養科看護科長 湊口祐子

自身が認知症になってしまった時
自分の思いや、気持ちが十分に伝えられなくなる可能性があります

自身の思いを伝えられる時に、家族や自分の信頼できる人と、人生会議をしましょう

- 命の危険が迫った状態になると約70%の方が、これからの医療やケアなどについて自分で決めたり、人に伝えたりすることができなくなるといわれている
- 病院や高齢者施設に入り、自分の意見が言えなくなってしまう前に、自分の人生をどう生きていきたいのか、家族や自分の信頼できる人と話をする機会を作ってください
- 話した内容は記録に残しましょう
- 思いが変わるたびに、話し合いをしましょう

みんなの人生会議

人生会議は、これからの人生をどのように生きたいか話し合うこと

年齢や健康状態にかかわらず、今を生きる全ての人に関係のあることです

- ①自分の思いに気付く確認する
- ②身近な人と話し合いその内容を書き留める
- ③書き留めたものは共有する

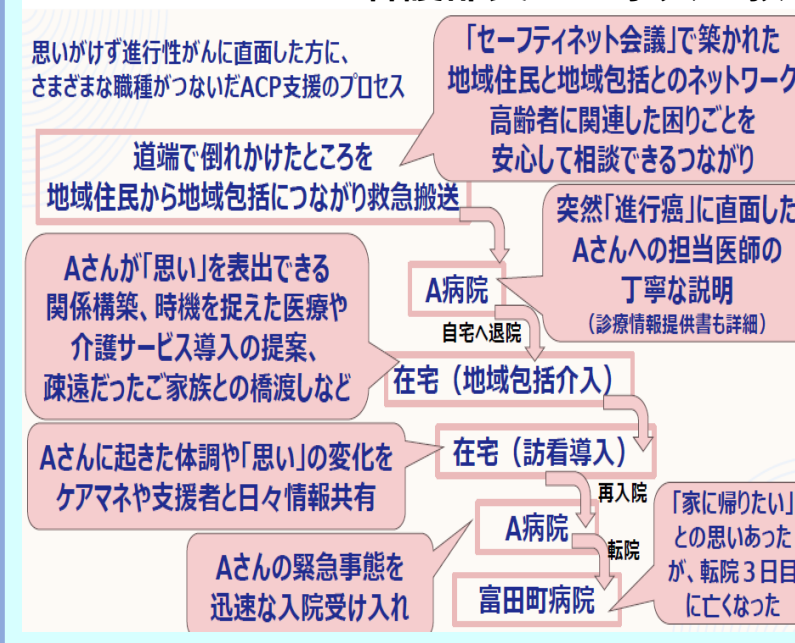
思いが変わるたびに繰り返す

人生会議とは、自らが希望する医療やケアを受けるために大切にしていることや望んでいること、どこでどのような医療やケアを望むのかを自分自身で前もって考え、周囲の信頼できる人たちと話し合い、共有しておくこと

大阪府人生会議ホームページより



患者の「揺れ」や「不安」に
多職種で寄り添い、
引き出した「思い」を
次の場につなごう！！
医療法人庸愛会 富田町病院
看護部長 永久 教子

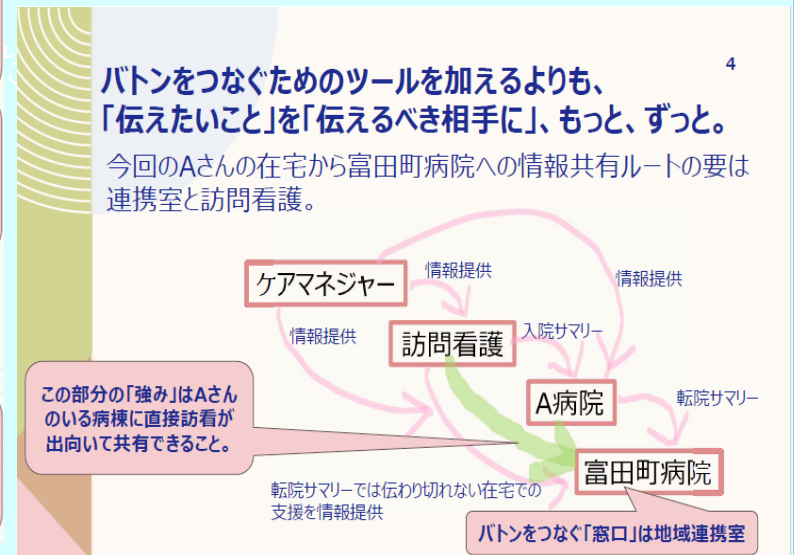


緊急入院を経て転院してきたAさんを、どう捉えるか。

Aさんは、「在宅調整目的」で転院してきたものの、「在宅復帰」を展望するには状態が急激に悪化していた。「いま」だけで切り取ると、「もう家に帰れない患者さん」。でも、同時に「家に帰りたい人」であり、「家で生きたい」という思いをみんなで支えた人。

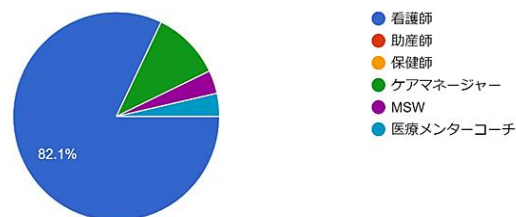
この捉えを、「入院まで」を支援した人たちと共有することが大切。

→ACPで大切にされるべきは「出された結論」だけでなく、そこに至るまでの過程。

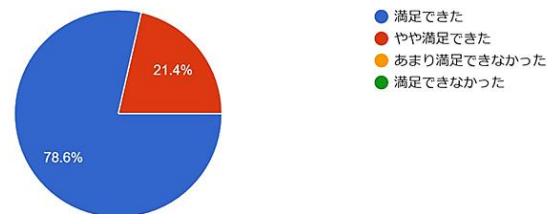


アンケート結果

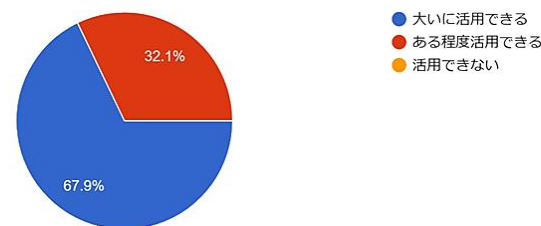
職種について教えてください
28件の回答



研修内容はいかがでしたか
28件の回答



今回の研修はご自身の施設で活用できそうですか
28件の回答



アンケートの自由回答

・思いを聞き出す事が第一歩ですね
・グループワークや少人数でのディスカッションがあったらいい
・ACP支援について入院時に説明していますが、患者さま、ご家族さまともに今一つピンときていない感じがみてとれます。支援をしていくということをみんなが知ることができるように地域で広げて行けたらいいと思いました。
・貴重なお話ありがとうございました。まだまだ世間にはACPという言葉が浸透していない現状かと思いますが、わかる人からどんどん伝えていく大切さを実感しました。
誰からACPの支援は発信でもよいと思いますので、関わるみんなでそのような機会が持ちやすい雰囲気や、関わり方ができるよう日々の業務に当たりたいと思います。

ご協力いただきありがとうございました。

今回の研修ではACPについての理解と共にどの程度、一般の方々に周知されているかを知ることができました。またそれぞれの立場で患者さんの思いに寄り添う大切さを具体的な事例を通して学ぶことができました。まさしく患者さん思いをつなぐ多職種の方々との連携が地域に求められている事を実感致しました。お二人の演者の方に感謝申し上げます。

府北支部 理事
高槻赤十字病院 看護部長 岸 恵美

編集後記 府北支部書記 青野 裕子
ACP支援の推進と患者個々のACP支援を看護師が多職種の中心となり牽引して行くことが必要と感じた研修でした。今後も夫々の施設で出来ることを決めて地道に推進して下さい。よろしくお願いします。

ご協力いただきありがとうございました。